

「新しい文化会館の基本構想」 (表現活動の検討)

テーマ：飯田らしい表現活動とは ～これまでとこれから～

共有されたイメージ：「飯田らしさ」「ありのままの飯田の芸術性・社会的役割」

- ①外からの文化の吸収と展開してきた背景
- ②日常と文化とのつながり
- ③専門家とのつながり

◆1班 ムトス精神の根付きを飯田らしさに

飯田は外からの文化を取り入れ、自分たちなりに工夫し守りながら付加価値をつけ、発信することを大事にしてきた。リニアが来て都会との距離や時間の短縮になることで、大きなものがたくさん入ってくる。それでも飯田のスタイルは維持され、文化は継承されていくのではないか。ムトスの精神が根付いていることが、飯田らしさにつながるのでは。

◆3班 バランスを保ちながら実を大きく

市民の意見や思いを、すべて受け入れてしまっても偏りが出してしまうので、意見を聞きながらも、地域性を大事にしてバランスをとることが大切。小澤氏の「公共のものは作るものではなく、実になっていくもの」という言葉に共感。市民の意見を聞きながら、一つひとつ、実を大きくしていくことが大切。

◆5班 自然と足を運びたくなる文化会館

文化とは遊びからきている。落語、浄瑠璃、歌舞伎もそう。新文化会館は、楽しく遊べて自然と人が集まる、そんな場所であってほしい。昔はすごい人がいた。カリスマおじさん・おばさんがいて、人が集まり文化が育まれる。人を育てることが大事。

◆2班 地域内外の専門家とのつながりを

飯田の文化は全国でも先端を走り、県外・海外から移住し飯田を拠点に世界で活躍するプロがいることも、飯田らしさと感じる。

一方、文化芸術に携わりレベルアップを求める人は飯田を出て、学び、戻ってくることもある。今後はリニアの駅も活用し、専門家やプロの方との交流の機会をつくり、レベルアップの橋渡しをすることが新文化会館の役割になってくれたら良い。

◆4班 民間主体の活動を、行政が支える

人形劇を振り返ると、人形劇カーニバルは行政主導で20年、現在のフェスタは民間が主導。民間主導でも行政のバックアップがあったから続いているが、やはり行政が前へ出ていたら文化は育っていかないと感じる。